

## 第6学年 理科学習指導案

授業展開② 指導者 6年3組  
展開場所 理科室

### 1 単元名 水よう液の性質

### 2 単元について

本単元は、第5学年の「A (1) 物の溶け方」の学習を踏まえて、「粒子」についての基本的な概念等を柱とした内容のうちの「粒子の結合」、「粒子の保存性」に関わるものであり、中学校第1分野「(2) ア (イ) 水溶液」、「(4) ア (イ) 化学変化」の学習につながるものである。ここでは、児童が水に溶けている物に着目して、それらによる水溶液の性質や働きの違いを多面的に調べる活動を通して、水溶液の性質や働きについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主により妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成することがねらいである。

児童はこれまでに第5学年の「もののとけ方」で、食塩水とホウ酸水を比較し、水の温度や量による溶け方の違いを調べることを通して、物の溶け方の規則性について理解している。しかし、物が溶けるという事象は理解しているが、溶ける物についての理解には偏りが見られる。塩や砂糖の粒など、目に見える物を水に入れると溶けて見えなくなることは、ほとんどの児童がその経験から理解しているが、目に見えない気体が水に溶けるという事象については、多くの児童が知らないでいる。気体が水に溶けると知っている児童も、知識として知っているだけで、実際に気体が溶けている事象についての根拠は漠然としたものである。また、身の回りには、水溶液の性質や働きを生かして作られた物が多く存在しているが、児童はそれらを水溶液として意識しているわけではない。

そこで、本単元では、初めに、いろいろな水溶液を蒸発させて、残ったものについて考えさせる活動から学習に入っていく。蒸発させた水溶液のうち、食塩水だけは固体が残るが、その他の水溶液は何も残らない。そこで、児童にとって一番身近な炭酸水を取り上げ、「炭酸水には何がとけているのだろう」と学習問題を立て、固体だけではなく「気体の溶けている水溶液」もあるのではないかと考えさせていきたい。そこから、「水溶液の仲間分け」「金属を変化させる水溶液」へと学習をつなげていく。また、単元の導入では、「ザ・水溶液マスターへの道」と銘打って、様々な水溶液を自分の力で見分ける力をつけていくこと、単元末で水溶液を見分ける試験があることを伝えることで、単元を通して児童の思考や問題意識が継続していくようにしていきたい。

### 3 単元の目標

水に溶けている物に着目して、それらによる水溶液の性質や働きの違いを多面的に調べる活動を通して、水溶液の性質や働きについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主により妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

### 4 単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①水溶液は、酸性、アルカリ性及び中性のものがあることを理解している。 ②水溶液には、気体が溶けているものがあることを理解している。	①水溶液の性質について、問題を見だし、予想や仮説を基に解決の方法を着想し、表現するなどして、問題解決している。 ②水溶液の性質について観察、実験などを行い、気体が溶けてい	①水溶液の性質について、身の回りで使用されている水溶液に進んで関わり、粘り強く他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ②水溶液の性質について、学んだ

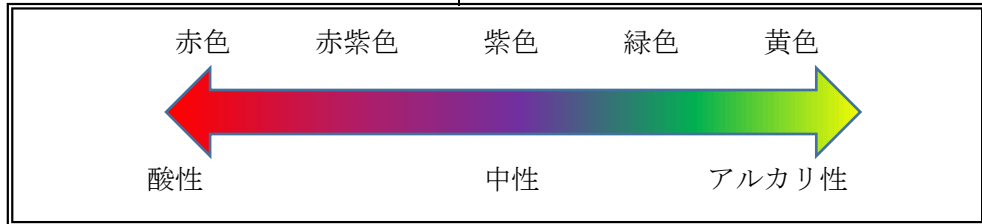
<p>③水溶液には、金属を変化させるものがあることを理解している。</p> <p>④観察、実験などに必要な器具や薬品を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。</p>	<p>る水溶液の性質や働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。</p> <p>③水溶液の性質について、観察、実験などを行い、水溶液には金属を変化させるものがあることについて、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。</p>	<p>ことを学習や生活に生かそうとしている。</p>
--	--	----------------------------

## 5 単元の指導計画（14時間扱い）

次	主な学習活動（○）	教師の指導・支援（○）・評価（☆）
<p>第1次</p>	<p>○第5学年「もののとけ方」で学習した水溶液の定義を振り返る。</p> <p>○5種類の水溶液（食塩水、炭酸水、塩酸、アンモニア水、水酸化ナトリウム水溶液）の性質について調べていくことに興味・関心をもつ。</p> <p>○見た目、において水溶液を区別する。</p> <p>○水溶液を加熱し、水を蒸発させて残ったものについて話し合う。</p>	<p>○学習の最後に、どれが何の水溶液か自分で調べて答えを出す試験があることを伝え、学習意欲を高める。</p> <p>○水酸化ナトリウム水溶液は、蒸発させると危険なので、実験からは必ず除く。</p>
<p>2</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">炭酸水には何がとけているのだろう。</div> <p>○これまでの経験や前時の活動を基に予想を立て、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水を蒸発させても何も出なかったので、気体が溶けている。</li> <li>・炭酸水には二酸化炭素が溶けていると聞いたことがある。</li> </ul> <p>○実験方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出てくる泡を集気びんに集めてろうそくの火を入れて、激しく燃えれば酸素だ。</li> <li>・炭酸水を石灰水に混ぜて白くにごったら二酸化炭素だ。</li> </ul> <p>○炭酸水に溶けているものを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ろうそくの火を近づけたら、すぐに消えた。</li> <li>・石灰水に混ぜたら白くにごったよ。</li> </ul>	<p>○予想の根拠が明らかになるように、なぜその予想になったのか理由を書くように指示する。</p> <p>○何の気体が溶けているのか「ものの燃え方」での学習を想起させ、どのような実験を行えば、その気体を確かめられるのか考えさせる。</p> <p>○安全に器具を扱うように実験方法を確認してから行うようにさせる。</p> <p>☆水溶液の性質について観察、実験などを行い、気体が溶けている水溶液の性質や働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。</p> <p style="text-align: right;">（思考・判断・表現）</p>

	○実験の結果と考察をまとめる。	☆水溶液には、気体が溶けているものがあることを理解している。(知識・技能)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">炭酸水には、気体の二酸化炭素がとけている。</div>	
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">水に二酸化炭素をとかして炭酸水を作ってみよう。</div>	
	<p>○実験方法を確認する。</p> <p>○水を入れたペットボトルに、二酸化炭素を入れてふって、二酸化炭素を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットボトルがへこんだよ。どうしてだろう。</li> <li>・ペットボトルの中の二酸化炭素がとけて、空気が減ったからへこんだのかな。</li> </ul> <p>○二酸化炭素が水に溶ける様子をイメージ図に表す。</p>	<p>○二酸化炭素以外の気体が入らないよう、班の友達と協力して行うよう指示する。</p> <p>○水と二酸化炭素の入った容器を振ると、容器がへこむことを捉えられるようにする。</p> <p>○二酸化炭素が水に溶ける様子を、二酸化炭素の粒を用いて表現するよう助言する。</p> <p>☆水溶液の性質について、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p> <p style="text-align: right;">(主体的に学習に取り組む態度)</p>
第2次4・5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">他の水溶液は、どのように見分けたらよいのだろうか。</div>	
	<p>○リトマス紙の使い方を理解する。</p> <p>○リトマス紙を使って、水溶液を酸性、中性、アルカリ性に分ける。</p>	<p>○リトマス紙を用いることで、見た目やにおい、蒸発乾固では、見分けられないものも、見分けることができることを説明する。</p> <p>○調べる液を変えるときは、ガラス棒を水で洗うよう指示する。</p> <p>☆リトマス紙を適切に使用し、安全に水溶液を区別するとともに、水溶液は酸性、アルカリ性及び中性のものがあることを理解している。(知識・技能)</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">リトマス紙を使うと、水溶液を酸性、中性、アルカリ性に仲間分けすることができる</div>	
6・7	<p>○演示実験を見て、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろんな色に変化して不思議だな。</li> <li>・色の変化と水溶液の性質に何か関係がありそうだ。</li> </ul>	<p>○5種類の水溶液(塩酸、炭酸水、食塩水、水酸化ナトリウム水溶液、アンモニア水)にムラサキキャベツ液を加え、色の変化を見せることで児童の学習意欲を喚起する。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">ムラサキキャベツ液で水溶液の性質を調べよう。</div>	
	○ムラサキキャベツ液を作る。	○紫キャベツの葉をなるべく細かく切るよう指

	<p>○5種類の水溶液に、ムラサキキャベツ液を少し入れて、色の変化を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ酸性なのに塩酸と炭酸水で色が違うのはなぜだろう。</li> <li>・酸性やアルカリ性にも強さがあるのかな</li> </ul>	<p>示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○包丁の扱い方に十分配慮するよう指示する。</li> <li>○児童に透明卵パックを用意させ、一人一実験できるようにする。</li> <li>○同じ液性でも、色の濃さに注目させ、なぜそのような違いが出るのかを考えさせる。</li> </ul> <p>☆観察、実験などに必要な器具や薬品を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。(知識・技能)</p>
8	<p style="text-align: center;">身近な液体の液性を調べてみよう。</p> <p>○身近にある液体や水溶液が何性なのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リトマス紙を使って調べよう。</li> <li>・ムラサキキャベツ液を使って調べたいな。</li> </ul>	<p>○あらかじめ、児童が自分で調べたい液体を用意し、意欲を喚起する。</p> <p>○シャンプーなどの液体は、水に溶かして調べるように指示する。</p>
第3次9・10	<p style="text-align: center;">金属をとかす性質をもった水溶液はあるだろうか。</p> <p>○これまでの経験や既習事項を基に予想を立て、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩酸とアンモニア水はにおいが強いから金属を溶かしそう。</li> <li>・食塩水、炭酸水は飲めるから溶けなそう。</li> </ul> <p>○それぞれの水溶液にアルミニウム片を入れて、どうなるか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩酸や水酸化ナトリウム水溶液に入れると泡が出て、激しくアルミニウムが溶けた。</li> </ul>	<p>○既習事項を振り返りながら、「水溶液には他にどんな性質があるか」問いかけることで、次の課題を見つけるようにする。</p> <p>○予想の根拠が明らかになるように、なぜその予想になったのか理由を書くように指示する。</p> <p>○薬品を扱うときは、保護めがねを使い、手などに薬品がついたら、水でよく洗うよう指示する。</p> <p>○アルミニウムが溶けた水溶液は、次の実験で使うのでとっておくよう指示する。</p>



身近にある液体はすべて酸性、中性、アルカリ性に分けることができる。

	<p>○実験の結果と考察をまとめる。</p>	<p>☆水溶液に入れたアルミニウムの変化を調べ、その過程や結果を適切に記録している。 (知識・技能)</p>
<p>塩酸と水酸化ナトリウム水溶液には金アルミニウムをとかす性質がある。</p>		
<p>11・ 12</p>	<p>○これまでの経験や既習事項を基に予想を立て、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水に溶けた食塩のように、アルミニウムのまま塩酸に溶けている。</li> <li>・アルミニウムは泡を出して消えたから、泡になって消えた。</li> </ul> <p>○実験方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食塩水のとくと同じように、水を蒸発させて何か残るかを調べればよい。</li> </ul> <p>○アルミニウムが溶けた液を熱し、何か残るか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白い粉みたいなものが残った。</li> <li>・これはアルミニウムなのかな。</li> </ul> <p>○白い粉がアルミニウムかどうかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一度塩酸に入れても泡が出てこない。</li> <li>・電気も通さない。</li> </ul> <p>○実験の結果と考察をまとめる。</p>	<p>○予想の根拠が明らかになるように、なぜその予想になったのか理由を書くように指示する。</p> <p>○水酸化ナトリウム水溶液から溶けた金属を取り出すのは危険なので、ここでは塩酸に溶けたアルミニウムを取り扱うことにする。</p> <p>○「もののとけ方」での学習を想起させ、溶けているものを取り出すにはどうしたらよいか考えさせる。</p> <p>○換気を十分にし、児童には保護眼鏡を着用させる。</p> <p>○出てきた物質が、もともとのアルミニウムと同じものかどうかをどのように調べればよいか考えさせる。</p> <p>○アルミニウムの性質を確認し、実験方法を全体で考えさせたうえで実験させる。</p> <p>☆水溶液には、金属を変化させるものがあることを理解している。(知識・技能)</p>
<p>とけて見えなくなったアルミニウムは、別のものになる。</p>		
<p>13</p>	<p>○これまでの経験や既習事項を基に予想を立て、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルミニウムと同じように溶ける。</li> <li>・鉄や銅の方が重いので、溶けにくそう。</li> </ul> <p>○塩酸と水酸化ナトリウム水溶液に鉄を入れて、とくすかどうか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩酸のからは泡が出てきた。試験官が熱くなっている。</li> <li>・水酸化ナトリウム水溶液の方は変化がない。</li> </ul>	<p>○予想の根拠が明らかになるように、なぜその予想になったのか理由を書くように指示する。</p> <p>○塩酸の方からは、気体が発生することや発熱することなど見たり触ったりして気付くことは助言する。</p> <p>☆水溶液に入れた鉄と銅の変化を調べ、その過程や結果を適切に記録している。(知識・技能)</p>
<p>塩酸や水酸化ナトリウム水溶液は、鉄や銅をとかすだろうか。</p>		

	○実験の結果と考察をまとめる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>塩酸は鉄をとかすが、銅はとかさない。 水酸化ナトリウム水溶液は、鉄も銅もとかさない。</p> </div>	
第 4 次	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>どうしたら不明な水溶液をすべて見分けることができるだろう。</p> </div>	
14	○チャート図の使い方と実験における注意点を 確認する。	○チャート図の作り方を例示し、学習の見通し をもたせる。
15	○ペアで実験方法を考え、チャート図を作る。	○薬品の取り扱い方や用具の使い方において、 安全に進められるようにする。
	○チャート図を基にペアで実験を進める。	○今までの学習を基に、「この実験をすれば、こ の水溶液を見分けることができる」という実 験に対する見通しをもたせる。
	○結果を全体で交流する。	☆水溶液の性質について、問題を見だし、予 想や仮説を基に解決の方法を発想し、表現す るなどして、問題解決している。 (思考・判断・表現)
	○学習全体の振り返りをする。	○実験がうまくいかなかったら、繰り返し実験 を行う、もしくは、チャート図を変更しても よいことを伝える。
		○他のペアの発表を聞き、いろいろな見方があ ることに気付かせる。
		○水溶液にはどのような性質を利用して、見分 けたのかを振り返り、水溶液の性質をまとめ る。

## 6 視点について

### 〈視点1〉学習意欲を喚起する手立ての工夫

【生活の中にある身近なものと水溶液の関わりを意識した学習】

本単元では、「水溶液の仲間分け」としてリトマス紙を用いて実験を行う。しかし、リトマス紙以外にも水溶液の液性を調べるものは身近に多く存在している。ムラサキキャベツやナスの皮やブドウの皮、赤ジソなどアントシアニンという色素が含まれてものを使うと調べるができる。これらを用いることで、リトマス紙のように「赤→青」「青→赤」の変化だけではなく、様々な色の変化から液性だけでなく、その濃度まで知ることができるので、「追究したい」という児童の意欲が増すことが考えられる。また、身近にあるもので水溶液について調べることができることに児童は感動を覚えるだろう。さらには、自分で調べてみたい液体の液性を調べる活動を取り入れることで、児童は意欲を高め、主体的に追究活動を行うと考えられる。塩酸や水酸化ナトリウム水溶液など児童にとって身近ではないかもしれない。しかし、石鹸をつくる際には水酸化ナトリウム水溶液を使うことや、塩酸と水酸化ナトリウムを混ぜると食塩水ができることなど、取り扱い危険な水溶液も日常に深く関係していることに驚きを感じさせることで、水溶液をより身近なものとして意識させるようにしていきたい。

## 〈視点2〉問題解決に向けた思考力を育む工夫

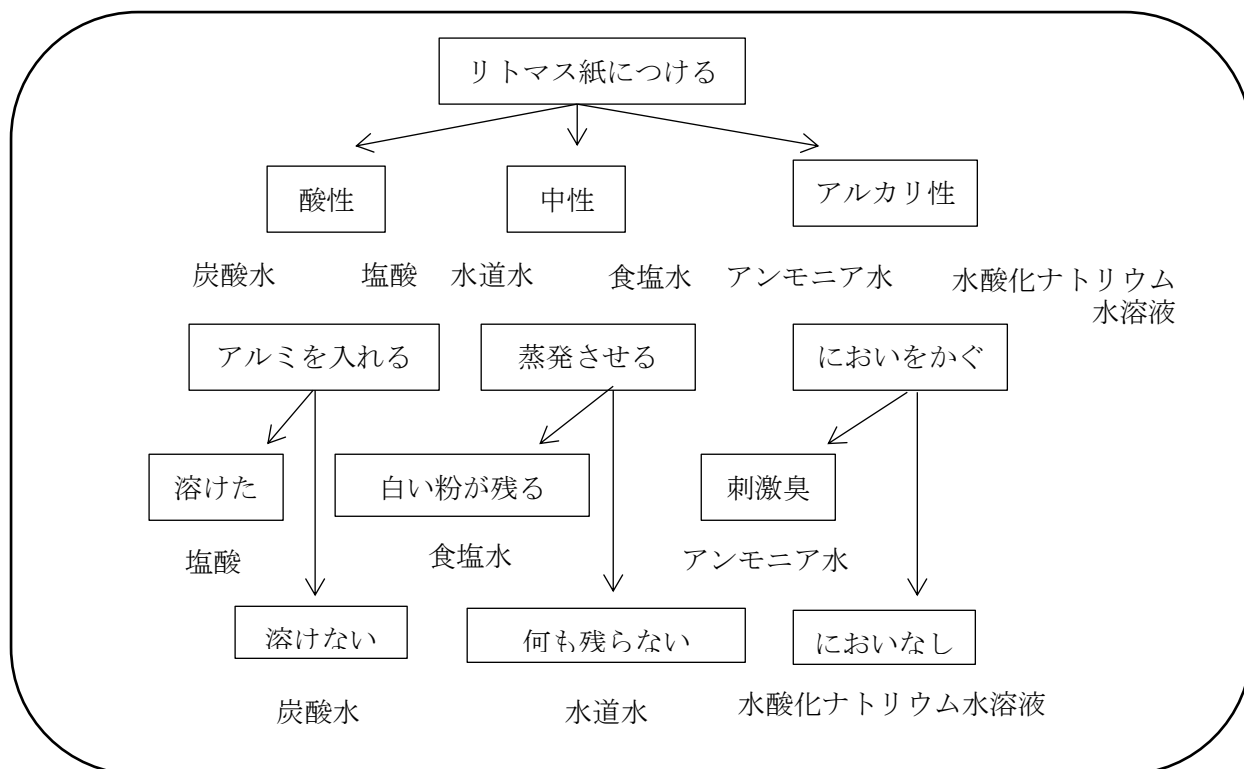
### 【既習や既存の知識をつなげる単元構成】

児童が自ら追究し続けるために大切なことは、単元を通して児童の思考や問題意識が継続していくことである。本単元を構成する上で問題になるのは、「水溶液の仲間分け」「気体の溶けている水溶液」「金属を変化させる水溶液」という異なる事象をいかに組み合わせ、一つの単元としてまとめ、児童の思考や問題意識を連続させるかである。本単元では、「ザ・水溶液マスターへの道」と銘打って、単元末に今まで学習したことを基に水溶液を見分ける試験を行うことを一本の軸としていく。そこで、初めに学習することとして「気体の溶けている水溶液」を取り扱う。児童は「もののとけ方」の学習で、食塩水を蒸発乾固させて食塩を取り出すことをしてきた。その既習事項を生かし、まずはそれぞれの水溶液を蒸発させて、固体が残ったものが食塩水と断定できる。そこから、「何も残らなかった水溶液には何が溶けていたのか」という新しい疑問に対して学習問題を立てていけるようにしていく。次に、水溶液を蒸発させるだけでは、すべての水溶液を特定することはできないので、「水溶液の性質を調べる実験器具がないと調べられない」という必要感を児童にもたせていく。そこでリトマス紙による「水溶液の仲間分け」を取り上げ、水溶液は酸性、アルカリ性及び中性の3種類に分けることができることを理解させる。そして3つ目に、酸性雨など社会的な事象を踏まえた上で「金属を変化させる水溶液」について学習していく。このように段階を踏んで水溶液の性質を学習していくとともに、単元末に今までの学習を総括した水溶液を見分ける試験を位置づけることで、児童は既習や既存の知識を学習につなげていくことができ、生活の様々な場面でも生かされていくと考えられる。

### 【チャート図を用いたペアでの活動】

本単元末の水溶液を見分ける試験で扱う水溶液は、いくつかの実験を通してどの水溶液が明らかになるものがほとんどである。そこで、水溶液を見分けるために必要な実験方法とその結果をチャート図にまとめていく。チャート図のよさは、手順や結果が明確に分かり、何度もやり直せることである。チャート図を用いることで、水に溶けている物に着目して、それらによる水溶液の性質の違いを多面的に比較することができるだろう。また、チャート図はペアで共同して考えていくこととする。児童にとってチャート図は慣れないものなので、ペアで考えていくことで効率性や妥当性をお互いに考慮しながらチャート図を作成していけるだろう。実験では、自分たちの考えと結果を比較しながら活動し、不具合が生じれば、そこで繰り返し実験を行っていく。このように、チャート図を用いてペアで実験を進めることで、児童は今までの既習事項を総動員して、論理的に思考しながら問題解決に取り組んでいけると考える。

<児童が考えるチャート図の例>



## 7 本時の指導

### (1) 目標

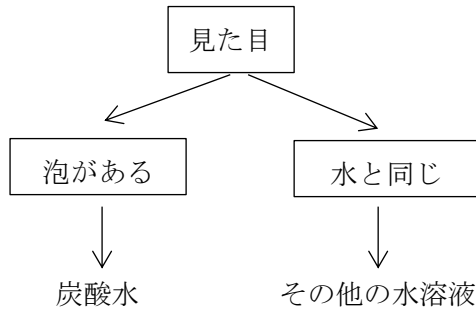
- 水溶液の性質について、問題を見だし、予想や仮説を基に解決の方法を発想し、表現するなどして、問題解決している。(思考・判断・表現)
- 観察、実験などに必要な器具や薬品を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。(知識・技能)

### (2) 展開 (14 / 15)

主な学習活動	教師の指導・支援 (○) 評価 (☆)
1 水溶液について、既習事項を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・蒸発させると気体が出るものがあるよ。</li> <li>・リトマス紙を使えば、酸性・中性・アルカリ性を判断できるよ。</li> <li>・金属を溶かす水溶液もあるね。</li> </ul>	○単元の導入で伝えた「ザ・水溶液マスターへの道」の最終試験を行うことを伝えて、児童の意欲を喚起する。 ○水道水と5種類の水溶液(食塩水、炭酸水、塩酸、アンモニア水、水酸化ナトリウム水溶液)を用意し、どのように見分けたらよいか、今までの学習を想起させる。
どうしたら不明な水溶液をすべて見分けることができるだろう。	
2 チャート図の使い方と実験における注意点を確認する。	○見目で特定できる炭酸水を例にしてチャート図の説明をする。「～ならば、…だろう。」というように、筋道を立てて推論しながら、チャート図で実験計画が立てられるよう助言をする。



(チャート図)



3 ペアで実験方法を考え、チャート図を作る。

- ・リトマス紙を使えば3種類に仲間分けできるね。
- ・金属が溶けるかどうかで、塩酸か水酸化ナトリウム水溶液にしぼられるね。
- ・においを嗅いだらアンモニア水はわかるね。
- ・蒸発させて白い固体が出てきたら、食塩水だね。

4 チャート図を基にペアで実験を行う。

- ・まずは、すぐに確かめられるリトマス紙を使って性質を調べよう。
- ・アルミニウムを入れたら泡を出して溶けたから、この2つは塩酸か水酸化ナトリウム水溶液のどちらかだね。
- ・中性の2つの水溶液を蒸発させると片方から白い固体が出てきたから、これは食塩水でもう1つが水道水だな。
- ・酸性の水溶液に鉄を入れたら泡を出して溶けたからこれは塩酸だな。
- ・アルカリ性でにおいもするから、これはアンモニア水だな。
- ・酸性の液体2つに石灰水を入れると塩酸か炭酸水かがわかるね。

(これより、次時)

5 結果を全体で交流する。

- ・初めにリトマス紙を使うと性質がわかるので、安全に調べていけるよ。
- ・水溶液に金属を入れるとすぐに塩酸と水

○これまでの学習を基に実験方法を考えられるよう助言する。

○既習事項である「気体の溶けている水溶液」「水溶液の仲間分け」「金属を変化させる水溶液」について模造紙にまとめておき、実験方法が浮かばない児童に対し、それを基に考えるよう助言する。

○危険な実験がないか、また効率のよい手順となっているかの確認を促す。

☆水溶液の性質について、問題を見だし、予想や仮説を基に解決の方法を発想し、表現するなどして、問題解決している。(思考・判断・表現)

○児童が考える実験を想定して、すぐに実験に取り組めるように、実験用具の準備をしておく。

○実験の際には、以下の点に注意するよう指導する。

・薬品の取り扱い方や用具の使い方において、安全に進められるようにする。

・薬品が手についたり目に入ったりしたら、速やかに水で流すようにする。

・異なる水溶液が混ざらないように、それぞれの水溶液に対して1つずつスポイトを用意して、それ以外に使わないようにする。

○実験がうまくいかなかったら、繰り返し実験を行う、もしくは、チャート図を変更してもよいことを伝える。

☆観察、実験などに必要な器具や薬品を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。(知識・技能)

○結果だけでなく、どのような実験の進め方が効率的だったか説明するよう促す。

○他のペアの発表を聞き、いろいろな見方があることに気付かせる。

酸化ナトリウム水溶液が判別できたよ。

- ・見た目とにおいて炭酸水とアンモニア水はすぐわかったよ。

6 学習全体の振り返りをする。

- ・水溶液は性質によって色々な分け方をすることができるんだね。

○異なる実験結果が出たら、その原因を考え、必要があれば全体で再度実験を行って確かめる。

○水溶液のどのような性質を利用して、見分けたのかを振り返り、不明な水溶液を調べる方法をまとめる。

#### ザ・水溶液マスターへの道

- ・リトマス紙などを使って液性を調べる。
- ・金属を入れて溶けるかどうか調べる。
- ・蒸発させて残ったものを調べる。
- ・見た目やにおいて判断する。